



全 仏

仏暦2540年1月
(1997年)

NO.425



ルンビニー園アショカ王柱再発見百周年記念祭式典
(関連記事4～5頁)

財団法人 **全日本仏教会**

JAPAN BUDDHIST FEDERATION

新春にあたって



全日本仏教会会長

高井隆秀

ます。

丁丑の初春
明けましてお芽出とう
ございます。

全日本仏教会は本年創立四十周年を迎えます。思い起こせば、昭和二十九年に全日本仏教会が誕生し、正式法人として発足したのが、昭和三十二年八月二十三日でした。

全仏は明治三十三年に仏教懇話会が誕生してから、実に百年近い歴史を持つ輝かしい組織であります。煩惱・相克によって起こる人類の苦悩を断除する仏陀の教えを信じて、私達は平和と福祉浄土の建設の為、各宗、力を合わせて今日迄歩み続けて参りました。

そして本年は又、比叡山で「宗教サミット十周年世界宗教者平和を祈る集い」が開かれ

これからも益々社会の高齢化が進み、心の時代となってくると思いますが、これら時代の要請に、法乳を拝謝する我々が、即対応し得る様、全仏という寄り集りの意識でなく、もつと強靱な連帯感のある組織体として、信火の焰を赫々と燃やし続けてゆこうではありませんか。

進歩発展の著しい現代に最も調和を必要とするもの、それは己を知り、生きとし生けるものの命を知り、一切の命あるものの痛みを知る心でありましょう。

各宗各派が一体となつて、より一層の精進を重ねようではありませんか。

年頭に当たり、更に飛躍への新しい歳と念じて、一言祝詞といたします。

謹賀新年

財団法人 全日本仏教会

会長
副会長

高井隆秀
田中日淳
松山寛惠
上田良準
宮部亮信
森田禅朗
田丸徳善
白幡憲佑

理事長

佐々木孝一

常務理事

大竹明彦	松村了昌	能邨英士	成田有恒	永井祥文	小倉宗徳	楠倉宗親	横山敏明
佐々木孝一	北條成光	海老原容俊	川井匡俊	新居祐政	杉谷義純	鳥居慎誉	

生死事大 無常迅速



全日本仏教会理事長

白幡憲佑

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本年は全日本仏教会が財団法人として組織されてより四十周年と云う記念すべき年であり、既に旧冬の常務理事会、理事会で今年秋十月に、その記念大会と第三十七回全日本仏教徒会議を神戸市に於いて併せ開催することが決定されました。

戦後五十余年、日本人は平和と安全を当然のように享受してきましたが今回の阪神大震災によって安逸の夢は空しく崩壊されました。機械文明の脆弱さと多くの尊い生命を失う現実により諸行無常、生死事大の仏教の真理を改めて知らされたのであります。

一瞬一瞬に生かされる生命の尊さも物質至上主義や科学万能の思潮によって、いつしか忘却されている現代人に対し、いまこそ生と死の原点を説くことが仏教者の責務でありま

す。この災害を風化させることなく仏教者の使命感を真摯に省みる聖機として四十周年記念大会を神戸の地に開催することにいたしましたのであります。

また御承知の通り宗教界に対する社会の注視はまことに厳しいものがあり、昨年九月十五日に発令された宗教法人法の一部改正の法律も公益性と自浄努力を強く求めるものであります。

本会がながきに亘り努力してきた釈尊生誕の地ルンビニー、マヤ堂の復興も関係各位の協力により、本年はその完成が期待される状況になりました。また日中韓三国の仏教交流、比叡山宗教サミット十周年行事など仏教の国際協力の成果もみられる本年であり、本会の使命の充実達成に一層の御支援を切願いたし年頭のご挨拶といたします。

理事

伊藤 襄爾
安藤 正晃
五十嵐 意承
大嶋 俊明
海野 浄雄
建部 龍憲
増田 貞圓

監事

山田 俊和
島田 喜久子
河野 亮永

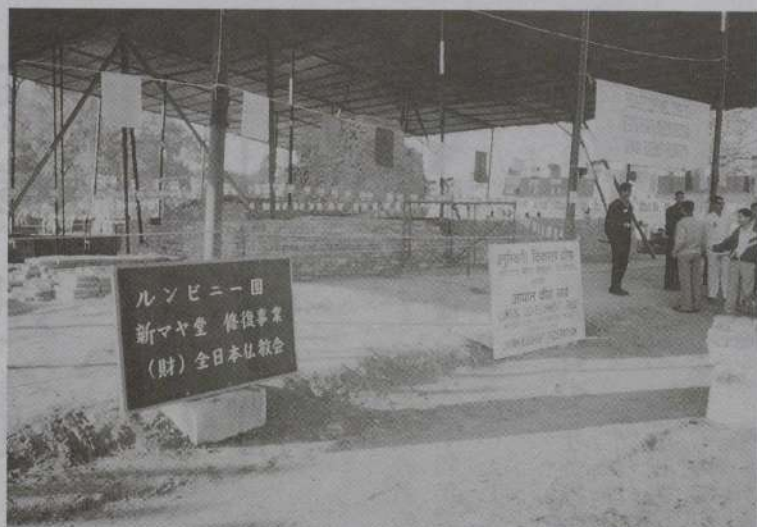
事務総局

事務総長 荒川 正憲
総務部長 田中 光成
財務部長 鷲尾 幸雄
同和推進部長 伊東 俊彦
社会部長 野生 祐宏
国際文化部長 吉橋 勝寛
総務部次長 渡邊 宗徹
財務部次長 三浦 章興
同和推進部次長 大谷 常淳
社会部次長 壽山 良光
国際文化部次長 深澤 照生
主事 水野 和子
江澤 みゆき

カトマンズでのWFB執行委員会



現在のマヤ堂修復現場



ルンビニー園アシヨカ王柱再発見百周年記念祭

—WFB執行委員会も開催—

去る十一月二十九日より十二月六日の日程でネパール王国にてWFB世界仏教徒連盟執行委員会及びルンビニー園アシヨカ王柱再発見百周年記念祭が執り行われた。本会からは、川島宏之ルンビニー委員会渉外・企画担当委員、並びに深澤照生国際文化部長が出席した。

先ず、十一月二十九日カトマンズにおいてWFB執行委員会が開催された。会議には日本をはじめタイ、マレーシア、アメリカ、韓国、ネパール等の各国執行委員が出席し活発に意見交換、討議がなされた。

特に懸案の第二十回WFB世界大会については、明年六月六日より六月十二日までの日程でソウルに於いて開催されることが、韓国の代表より提案されたが、依然として韓国内の三つのセンターの調整がつかず最終決定は十二月中旬まで持ち越されることになった。

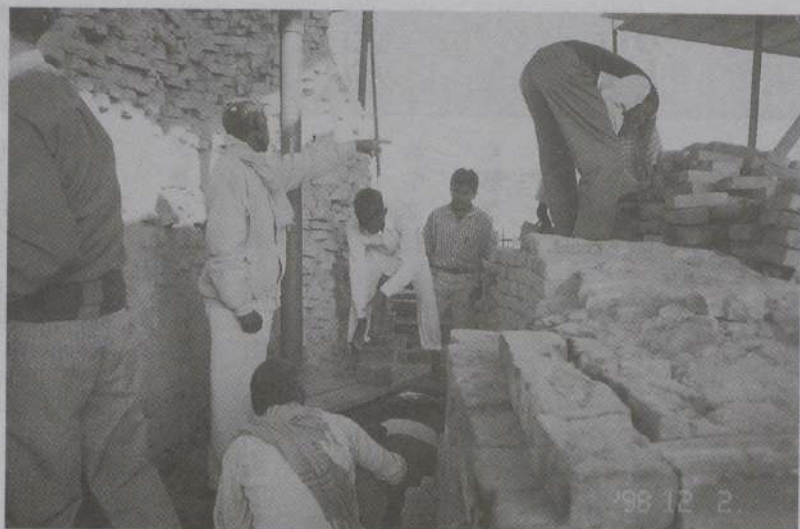
十二月一日より会場はルンビニーへと移り、アシヨカ王柱再発見百周年記念祭がネパール観光省の主催により開催された。

ルンビニーのアシヨカ王柱は、一八九六年ドイツ人考古学者フューラーによって発見され、その王柱の碑文によりルンビニーの地が釈尊御生誕の聖地であることが判明した。

アシヨカ王柱の中央部の碑文にはブラフミ文字が刻まれている。この文字の解釈は

様々あるが「釈尊がここでお生まれになったので即位二十年に記念碑を建て住民の税を免除され生産の八分の一のみを払うものとする。」と記されている。

ちようど百年前のこの発見を祝して行われた記念式典は、十二月一日、アシヨカ王柱前



発掘現場の様子

に於いてネパールのスポーツ文化大臣（LD T理事長）はじめ、中国、韓国、スリランカ、ミャンマーの各国在ネパール大使、WFB関係者、各国仏教徒が大勢参列し盛大に執り行われた。

当日は、ネパールの仏教徒、各国より駆け



NHKの取材に答える川島委員

つけた大勢の参拝者は、マヤ堂及びアシヨカ王柱を取り囲むように、記念式典を見守っていた。

記念式典では、来賓を代表して各国大使挨拶に続いて川島宏之委員が挨拶に立ち、本会が現在まで進めてきたマヤ堂修復事業の経過として考古学調査の概要、更に今後のマヤ堂再建についてスピーチし、参列者の関心を集めた。

記念祭期間中は、考古学調査によって発見された「石」を含むマヤ堂発掘現場が公開され、いつもは静けさの中にあるルンビニーの聖地も多くの参拝者で賑わった。

尚、既報の通り本会はLD Tとマヤ堂の復元について交渉を続けているが、今般ネパール訪問にあたってLD T理事長（スポーツ文化大臣）宛へ本会のマヤ堂復元基本構想（協定書に基づいて同一場所、同一規模、基壇によって遺跡を埋め戻す、基壇上にマヤ堂を復元する、釈尊御生誕像は復元されるマヤ堂に戻す）の書簡を伝えた。

この書簡はWFB執行委員等にも配布され各国代表より支持するとの声が上がった。

今後はこの書簡に対するネパール側の返答が待たれ、いよいよ具体的（設計・建築）な話し合いが進められマヤ堂復元へと向かっていく。

謹 賀 新 年

曹洞宗宗務庁

東京都港区芝一丁目一五二番一 〒106-0033(三四五四)五四一一	管 長 宮崎 奕保	宗務 総長 大竹 明彦	参 議 福山 諦法	参 議 岡田 巳成	教学 部長 佐々木 孝一	総務 部長 伊藤 襄爾	財政 部長 有田 惠宗	人事 部長 洞外 文隆	出版 部長 檀上 尚道	伝道 部長 村松 了章	教化 部長 佐藤 良彦
---------------------------------------	-----------	-------------	-----------	-----------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

浄土真宗本願寺派

京都市下京区堀川通花屋町下ル 本願寺門前町 〒600-0753(三七二)五一八一	総 長 松村 了昌	総 務 桑原 範雄	同 青地 敬水	同 北島 経昭	同 九折 舜壽	同 沖井 道雄
--	-----------	-----------	---------	---------	---------	---------

総本山金剛峯寺
高野山真言宗宗務所

和歌山県伊都郡高野山一三三番一 〒648-0202(七三六)五六二〇一一 FAX 〇七三六(五六)四六四〇	座長 稲葉 義猛	管 長 新居 祐政	執行 総長 田岡 照遍	宗務 総長 岩坪 眞弘	執行 総長 安芸 昌憲	財政 部長 山口 耕榮	執行 部長 葛西 光義	山林 部長 常岡 弘雄	内務 部長 山花 義宥	総務 部長 山花 義宥	企画 部長 山花 義宥	同 局長 佐々木 兼俊	同 局長 佐々木 兼俊	教学 部次長 尾 惠證	東京別院主監 出張所々々長 壽山 良知	東京宗務 出張所々々長 佐々木 弘傳	堀川別院主監 出張所々々長 佐々木 弘傳	高野山弘法大師 法寶会東京 事務所々々長 服部 融宣
---	----------	-----------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	---------------------	--------------------	----------------------	----------------------------

日蓮宗宗務院

東京都大田区池上二丁目三二番一五 〒146-0033(三三七五)七二八六 FAX 〇三三七五(七五)七二八六	管 長 田中 日淳	宗務 総長 永井 祥文	宗務 副総長 岩間 湛正	綜合 企画 部長 渡邊 清明	庶務 部長 栗原 正震	財務 部長 星 光諭	教務 部長 斎藤 邦昭	護法 伝道 部長 小倉 光雄	立教 開宗 七五〇年慶 誼会事務局長 新井 貫厚	現代 宗教 研究所 長 石川 浩徳	国際 開教 室 長 上田 尚正	人權 対策 室 長 大乗 文延	参 与 堀江 宏正	参 与 浅井 玄裕
--	-----------	-------------	--------------	----------------	-------------	------------	-------------	----------------	--------------------------	-------------------	-----------------	-----------------	-----------	-----------

年 新 賀 謹

真言宗智山派宗務庁
総本山智積院法務所

管 主 長 高 井 隆 秀

宗務総長 楠 宗 親

執 務 部 長 小 林 照 宥

執 務 部 長 馬 場 修 任

執 務 部 長 田 村 正 規

執 務 部 長 細 川 憲 了

執 務 部 長 阿 刀 隆 信

宗務出張所長
別院執事 鈴 木 中 也

〒605 京都市東山区大路七条下ル
東瓦町九六四
〇七五(五四)五三六一

真宗大谷派

宗務総長 能 邨 英 士

参 務 後 藤 宣 一

同 岡 川 秀 映

同 常 盤 晃 耀

同 木 全 和 博

同 中 林 德 雄

〒600 京都市下京区烏丸通り七条上ル
常葉町七五四
〇七五(三七)九一八一

天台宗務庁

天台座主 梅 山 圓 了

宗務総長 杉 谷 義 純

参 務 部 長 山 田 俊 和

参 人 部 長 大 岡 寂 順

参 務 部 長 植 田 惠 秀

参 学 部 長 小 川 晃 勝

参 社 会 部 長 山 田 能 裕

参 一隅を照らす
運動総本部長 獅 子 王 圓 泰

〒520 大津市坂本四丁目六番二号
〇七七五(七九)〇〇二二

真言宗豊山派宗務所

管 長 濱 野 堅 照

宗務総長 鳥 居 慎 譽

總務部長 浅 井 侃 雄

教務部長 若 槻 繁 隆

教化部長 中 川 祐 聖

財務部長 鶴 晃 秀

教化センター
院長 小 野 塚 幾 澄

教化センター
事務局長 田 代 弘 興

〒112 東京都文京区大塚五丁目四〇一八
〇三三(九四五)〇六三九

年 新 賀 謹

融通念佛宗
総本山大念仏寺

法管 長 白井慈勲
主

宗務総長 森田昭光
寺務総長

教学部長 尾垣良格
法務部長

庶務部長 清林義博

財務部長 今田章介
會計部長

大阪府平野区平野上町
〒547 〇六(七九二)〇〇二六六

財団法人 仏教伝道協会

会長 沼田智秀

理事長 信楽峻磨

理事 吉國二郎

同 松村了昌

同 梶山雄一

同 高崎直道

同 福山諦法

常務理事 高島孝範

監事 井上信一

同 坂東性宣

東京都港区芝四丁目一四
〒108 〇三(三四五五)五八五一

真言宗須磨寺派
大本山須磨寺

貫管 長 小池弘三
主

寺務長 吉井恵貫

神戸市須磨区須磨寺町四丁目六十八
〒654 〇七八(七三二)〇四一六

真言宗善通寺派宗務庁
総本山善通寺

法管 長 高吉清順
主

宗務総長 榎原禪澄
執行長

香川県善通寺市善通寺町
〒765 〇八七七(六二二)〇一一一

臨濟宗円覚寺派

大本山 円覚寺

鎌倉市山之内四〇九
〒247 〇四六七(二二二)〇四七八

大本山 南禅寺

管 長 塩澤大定

宗務総長 虎山秀禅

京都市左京区南禅寺福地町
南禅寺派宗務本所
〒606 〇七五(七七二)〇三六五

年 新 賀 謹

京都仏教会

会 長	東伏見 慈 洽
理 事 長	有 馬 頼 底
常務理事	大 島 亮 準
同	清 瀧 智 弘
同	荒 木 元 悦
理 事	平 野 暎 哉
同	大 西 真 興
同	江 上 泰 山
同	田 辺 瑚 海
同	宮 城 泰 年
同	岡 辨 有

〒 京都市上京区今出川通烏丸東入一
 A602 相國寺前町六八四一
 X 〇七五二二三三三六九七六

新潟県仏教会

会 長	中 村 啓 識
副 会 長	井 口 能 晁
同	春 日 浩 三
同	井 上 亨
同	高 橋 透 龍
事 務 局 長	小 林 秀 徳

〒 長岡市上田町二二二五
 940 〇二五八(三三三)一五八六
 徳聖寺内

念法眞教教団
 総本山金剛寺

〒 大阪市鶴見区緑三十四二三二
 538 〇六(九一一)二一〇一

真言宗大覚寺派
 大本山 大覚寺

管 門 跡 長 上 井 寛 圓

宗 務 總 長 廣 安 俊 道

〒 京都市右京区嵯峨大沢町四
 616 〇七五(八七二)〇〇七二

孝道山 本仏殿

統 理 岡 野 正 貫

副 統 理 岡 野 鄰 子

〒 横浜市神奈川区鳥越三八
 221 〇四五(四三三)一一〇二

年 新 賀 謹

大阪府仏教会

会 長 森田 禪朗

副 会 長 増田 貞圓

同 北村 日照

同 卜半 幸三

同 長洲 眞

事務局 長 井桁 雄弘

事務局
大阪市住吉区墨江三丁目十七番八号
大圓寺内
〒558 ○六(六七)三二五九(代)
FAX ○六(六七)三五〇〇四

社団法人 全日本仏教婦人連盟

名誉会長 一條 智光

理事長 友廣 和

専務理事 島田 喜久子

事務局 長 林 恵智子

東京都豊島区北大塚二ノ一ノ一
大塚アラザビル7F
〒170 ○三(三九)〇一八九
分室 東京都新宿区西新宿二ノ一ノ一
新宿三井ビル34F
(INNA生命内)
〇三(三三)四六七九四

兵庫県仏教会

会 長 高見 寛康

副 会 長 大谷 昭世

同 衣笠 諦道

事務局 長 市村 隆玄

神戸市灘区原田通三丁目五ノ一十八
金剛福寺内
〒657 ○七八(八六一)四〇四四

岐阜県仏教会

岐阜市西野町三十一
本願寺岐阜西別院
南門入口
〒500 ○五八(二六六)七八〇三
FAX ○五八(二六六)七八〇三

福島県仏教会

会 長 寺島 彦宗

専務理事 横田 聖峰

福島市山口字寺前五
安洞院中
〒960 ○二四五(三四)〇九三九

財団法人 日本佛教鑽仰会

理 事 長 中山 静麿

東京都板橋区舟渡四ノ一五ノ一八
〒174 ○三(三九)六七七三二八八

年 新 賀 謹

財団法人 埼玉県仏教会

会 長 江連俊則

副会長 河野亮永

同 酒井文雄

専務理事 目黒靖淳

常務理事 勝山良盛

同 金子泰嶽

同 萩野映明

同 嘉村義正

事務局長 森山達夫

〒浦和市高砂四一三二一八
F A 336 〇〇四八(八六一)二一三八
X 〇四八(八六四)六六四九

東京都仏教連合会

会 長 宮部亮信

理事長 白川謙敬

事務局長 加藤隆宣

東京都品川区西五反田
〒141 三十五十五 徳藏寺内
F A X 〇三(三四九)二五七一
〇三(三七七九)五〇八四

愛知県仏教会

会 長 岩田文有

副会長 玉井康之

同 近藤真道

同 岡田泰成

日進市岩崎台一一二四〇
〒470-01 〇五六一七(二三三)五八
観音寺内

全日本仏教青年会

理事長 水谷栄寛

横浜市磯子区磯子八一一四一一二
〒235 〇四五(七五三)五一一四七
真照寺内

新義真言宗

東京都文京区湯島四一六一二
〒113 〇三(三八一四)三四六四
湯島ハイタウンB一一二一一

金峯山修験本宗
總本山金峯山寺

管 長 五條順教

奈良県吉野郡吉野町吉野山
〒639-31 〇七四六三(二)八三七一(代)

年 新 賀 謹

愛媛県仏教会

会 長 植田英瑞

副 会 長 谷本祥龍

同 吉川俊宏

監 査 一ノ宮惠然

同 藤方大進

事務局 長 川井甫孝

会 計 松本信見

松山市星岡町四一五
〒790 〇八九(九五六) 延立寺内
〇九六七

真言三寶宗 大本山清澄寺

法 管 主 長 坂本光謙

執 行 務 長 長 國定淨運

館 長 鐵齋美術館
村越英明

宝塚市米谷字清シ一番地
〒665 〇七七(八九六) 六六四一

本門佛立宗 本山宥清寺

講 有 井上日慶

宗 務 総 長 小山日誠

本 山 宥 清 寺
京都市上京区一条通七本松西入
滝ヶ鼻町一〇〇五番地の一
〒602 〇七五(四六三) 四六二〇(代)
本門佛立宗 宗務本庁
京都市上京区御前通一条上る
東堅町一〇番地
〒602 〇七五(四六一) 一〇六六(代)

聖観音宗 浅草寺

貫 首 清水谷孝尚

執 事 長 小岩井貫承

東京都台東区浅草二一三十一
〒111 〇三三(三八四二) 〇一八一
FAX 〇三三(三八四五) 六九三三

北海道仏教会連盟

会 長 大嶋俊明

札幌市中央区北三条西十九一
〒060 〇一一(六一) 九六二三
本願寺札幌別院内

第八回加盟団体代表者

同和研修会



ハーバーランドニューオータニでの研修会

十二月三日、第八回加盟団体代表者同和研修会が、六十余名の参加者を得て神戸で開催された。午前中は、神戸ハーバーランドニューオータニで、「番町地区の現状と課題」をテーマに、部落解放同盟兵庫連番町支部書記長の滝野雅博氏と、「夜間中学（識字教育）について」をテーマに、社会福祉法人えんぴつの家理事長、玉本格氏が講演を行なった。午後には会場を長田区に移し、現地研修を行った。

※ ※ ※

滝野氏は、現在までの番町地区の歴史的な変遷を資料を用いながらわかりやすく説明し、その中で地区内の人口の増減と社会情勢の変化との関連などにも触れた。

次に、阪神大震災の被害状況について具体的に例を挙げて説明し、番町が大きな被害を被った理由に同和对策事業の遅れを挙げ、被害が天災と人災の両面の性格を持つことを説明した。

そして住環境の整備など同和对策事業のよ

り一層の推進が必要であると強調した。

また、災害救援に訪れたボランティアの人々との交流から、人と人の心の触れあいの大切さを学んだことと、今後の復興への課題を説明した。

そして、現在も地区外の仮設住宅で不自由な生活をおくっている人々たちへのアンケート調査や、慰問などのケアを精力的に行っていることを述べた。

また、同和問題全般に関しては、結婚など自分の身近なことになると差別意識が顕在化してくること、一人の人間の差別意識は、自らの変わる努力と、回りの変える努力が噛み合ってこそ解消されることを述べて講演を締めくくった。

玉本氏は、丸山中学西野分教場（夜間中学、西野幼稚園の校舎を利用）の訪問教師として、番町地区で長期欠席していた子供たちの教育に携わった経験が話された。

最初の年に年間五十日以上欠席している長欠の子供を七十八名担当し、子供達の家を一軒一軒丹念に訪問して歩き、一年かかって、十四名が登校できるようになったこと、また困難な状況の中で、子供たちに教育の大切さ、学ぶことのすばらしさを、作文教育などを行う中で伝え育んで来たこと述べた。

また、子供たちの家庭へ訪問を重ねるうち、



滝野雅博氏



玉本 格氏

厳しい部落差別の実情を肌で感じ、民生安定所（現在の福祉事務所）に日参し陳情を重ねるなど、子供たちが安心して教育を受けられるよう行政への働きかけを行ったことを述べた。

そして現在、社会福祉法人「えんびつの家」理事長を務める玉本氏が、震災後に西野幼稚園を訪れ、無惨に倒壊した校舎を見て、大きな心の痛みを覚えたこと、また、その周辺で亡くなった方、今も不自由な生活をされている人々への思いを語った。

最後に、現在一七〇万人もの義務教育未修了者がいる現実を踏まえ、夜間中学が設立以



番町の現状を見る参加者

来公教育の場において、いかに重要な役割を果たしてきたか、また今後もその役割を果たし得るものであることを強調し講演を終えた。

午後からは、会場を番町の長田文化会館に移し二班に分かれて交互に研修を行った。

一班が番町地域の現況を、実際に地域を歩き確認する研修を行っている間に、二班は長田文化会館で、阪神大震災で番町地域が被った被害、今後の課題等をまとめたビデオを見る研修を行った。

部落解放同盟兵庫連番町支部員の方々が、震災当時の様子を説明する中、参加者は実際に被害の跡の生々しい地域を歩き、河川の護岸工事の様子や、市営住宅の建設、既存の住宅の補修の様子などの説明を受けた。参加者からはその都度質問が出され、同和対策事業の問題点や今後の課題について効果的な研修を行った。

また、ビデオのなかでは、震災当時の大きな被害を受けた番町の様子が映し出され、現在までの復興の様子をより鮮明に理解することができた。

最後に、両班とも長田文化会館に集まり、質疑応答を行った。参加者からは活発に質問が出て、滝野氏らより丁寧な解答をいただいた。そのうち、田中郁朗同和委員会委員長より挨拶があり、午後三時四十分閉会となった。

常務理事会開催

十二月二日午後二時から、京都グランドホテルで、常務理事会が開催された。三帰依文唱和につづいて、白幡理事長を議長に、小倉宗徳、楠宗親の両師を議事録署名人に選出、議事に入った。

議案第一号「平成九年度事業計画(案)、収支予算(案)の大綱について承認を求める件」

白幡議長より上程。荒川事務総長、鷺尾財

務部長が説明。質疑応答の後、原案通り承認された。

議案第二号「財団創立四〇周年記念事業について」

白幡議長より上程。荒川事務総長、鷺尾財務部長が事業の概要を説明。質疑応答の後、原案通り承認された。

報告事項

①ルンビニー園復興事業の経過および今後の取り組みについて

川井ルンビニー委員長及び吉橋国際文化部長が、現況の報告と事業の見通しを報告。

②「国内の宗教団体に関する調査研究(文化庁)について」

荒川事務総長が、協力する方向である旨を報告。

③事務総局各部報告
各担当部長より、報告された。

大阪府仏教徒大会

去る十一月十九日午後三時半から、ホテル日航大阪を会場に、第三十一回大阪府仏教徒大会が開催された。

第一部の式典につづいて、第二部では「日本の将来は大丈夫か?」宗教と政治の願わしい関係を求めて」というテーマで、パネルディスカッションが行われた。大谷女子短期大学教授の川崎泰資氏と、朝日新聞論説委員の北畠清泰氏が、先般行われた衆議院総選挙における宗教団体の活動実態を中心に、宗教と政治の関係について、白熱した議論を展開した。

事務局長録事

十二月一日

二日 常務理事会

三日 加盟団体代表者同和研修会

六日 真宗大谷派門首就任祝賀会出席

十二日 局内会議

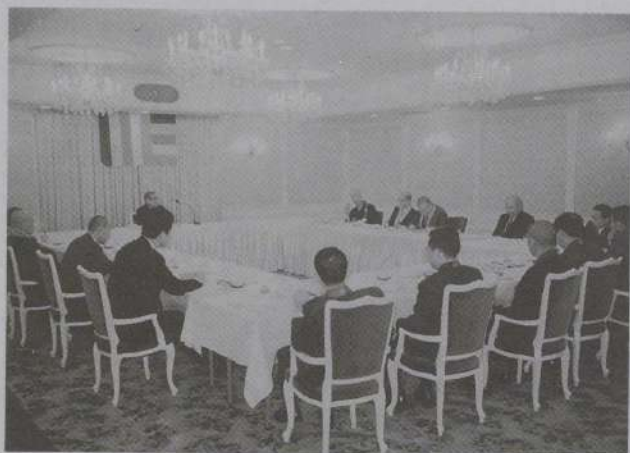
法律相談室

十三日 同宗連実践交流懇談会出席

十九日 同和委員会

法律相談室

長谷川正浩弁護士による無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務総局(〇三―三四三七―九二七五)へ事前予約の上おいで下さい。



京都グランドホテルで開催された常務理事会